

## 学び合いを通して、地域で生活したり働いたりしている人の思いや願いに気付く子ども

— 小学2年「町のすてきを見付けよう～とびだせ！ふ小 たんけんたい～」の実践から —

### 1 単元のねらい

自分たちと関わりのある人と繰り返し関わることで、そこで生活したり働いたりしている人々の思いや願いに気付くことができる。

### 2 授業の構想

#### (1) 子どものとらえについて

下記は、1学期に行った町探検の後のふりかえりである。

今日、町たんけんではカネモリしょうゆに行きました。カネモリしょうゆの人は2かいにもつれていってくれました。とてもふかいおげがありました。おげは80こぐらいあって、2年ぐらいでしょうゆができるそうです。ごはんの時につかうしょうゆが、こうやってできていることがわかりました。つくるのにとっても時間がかかるので、びっくりしました。今度はつくる場所も見たいです。  
(児童A)

このふりかえりからは、カネモリ醤油で働いている人の話を聞き、醤油をつくる工場の中の様子やつくり方についてのたくさんの気付きをもったり、自らの生活と重ね合わせたりしながら観察していることがうかがえる。児童Aは早い段階からカネモリ醤油に探検に行きたいと希望し、質問もたくさん考えており、「いいにおいのするあの建物は何だろう。」「早く行って中を見たり話を聞いたりしたい!」という思いや願いをもって活動に向かっている様子がうかがえた。また町探検後、児童Aはさっそく家にある醤油を調べ、それがカネモリ醤油のものであることをうれしそうに教えてくれた。そこには新しいことを知った喜びやそれをまわりの人に伝えることのうれしさが満ちあふれていた。児童Aは、建物の中の様子やそこで何をつくっているのかを知り、さらに新たな課題をもちながら、そのことを学級全体に伝えることで自分の気付きを確かなものにしていった。このように本校の生活科では、学んだことを自分のくらしと結びつけたり新たな課題を見付けたりする姿を、学びをいかしている姿ととらえている。

町探検により、町にある施設や店がどこにあって、そこにはどんなものがあるのかといったことに目を向ける子どもはたくさんいたが、そこで生活したり働いたりしている人の思いや願いに目が向いている子どもは少なかった。

このような子どもの実態を踏まえ、本単元では自分たちのまわりの町で生活したり働いたりしている人に視点を当てて探検することで、子どもたちにとって魅力のある「すてきさがし」をし、それらの人々の思いや願いに気付いていくことを目指そうと考えた。

#### (2) 本単元の内容と生活科で考える思考力・判断力・表現力の育成と関わりについて

本単元では、すてきさがしの探検先として、給食室に食材を卸している青果店で働く人や学校の生活科で野菜の苗を購入した店の人、1学期の町探検で行った店や施設などを設定した。子どもたちのこれまでの生活と関わりがあり、それぞれの仕事に熱い思いや誇りをもっている人を紹介し、人に出会い、実際に関わることで、そこにはいろいろな人がいろいろな仕事をし、その仕事に思いや誇りをもっていることに気付くことができると考えた。また、探検先で話を聞いたり伝え合うために話をしたりする中で問いをもったり、友だちに分かりやすく伝えるための工夫を考えたりといった1学期の町探検で培った思考力や判断力、表現力をさらに育てていきたいと考え、以下の2点を大切に単元を構成した。

①「会ってみたい。」「話を聞いてみたい。」という願いや追求意欲をもつことができるように、出会わせ方を工夫する。

単元の導入として、わたなべ青果店のトラックが、朝、学校の給食室に野菜を運んでいることに気付いている子どもとの会話や日記を紹介した。それを聞いて1学期の町探検でわたなべ青果店に行った子どもが、「わたなべ青果店では、〇〇さんが仕事をしているんだよ。」と進んで教えようとするので、「わたしたちも渡部さんに話を聞きに行きたい。」という願いを引き出したいと考えた。その上で第1次では、1学期の町探検でわたなべ青果店に行った子どもたちに案内してもらいながら、渡部さんに会いに行き、自分の仕事に対して誇りを持ち、お客さんを大切にしている渡部さんの人柄や「地域の人のためにも、この店をとじるわけにはいかない。」という仕事に対する熱い思いに出会わせることで、働く人の思いに目を向けながら、「もっと他の人にも会って話が聞いてみたい。」という思いや願いを広げ、単元を通して主体的に追求する姿を期待したいと考えた。

②子どもたちの思考を深めたり、気付きの明確化や共有化を図ったりするために、すてきさがしをして気付いたことや見付けたことを友だちに伝える学び合いの場を設定する。

すてきさがしの後には、自分たちが出会ったすてきな人のことを友だちに伝え合うことによって町の人に対する気付きの明確化・共有化が図られ、気付きの質が広まり深まるように学び合いを設定した。1回目のすてきさがしの後に自分が気付いたことを伝え、友だちの質問に答えたり、友だちの発表を聞いたりした。そこから「もっと〇〇さんのことを知りたいから、今度は〇〇について聞いてこよう。」と新たな疑問をもったり、その疑問を確かめてみたいと考えたりする学び合いを設定した。この学び合いにおいて、子どもたちが町の人に対する気付きを広げていけるようにしたいと考えた。新たな疑問や願いをもちながら2回目のすてきさがしに出かけ再び関わることで、子どもたちがその人のことをより深く知り、その後の学び合いで自分が出会った人に対して愛着をもてるようにしたいと考えた。自分が思いをもって関わってきた人の魅力について友だちに伝えることで、「〇〇屋の〇〇さんは、〇〇なことを考えながら一生けんめい仕事をしているんだな。」という気付きが高まっていくようにしたいと考えた。その時の子どもの表現の方法については、自分なりの表現を工夫できるように子どもたちにまかせた。2回の学び合いを通して、出会った人に愛着をもちながら思いや願いに気付いたり、自分とは違ったすてきさがしをしている友だちへの気付きをもったりすることができるようにしたいと考えた。

### (3) 思考力・判断力・表現力の育成に関する学び合う場面の構想について

本単元では、自分たちの生活と関わりがある人が、どのような思いや願いをもって生活したり働いたりしているのかに視点を当てすてきさがしを行った。それらの人に会いに行ったり話を聞いたりするといった、人と直接関わる活動を通して、町の人々の思いや願いに気付いて欲しいと願った。

第1次では、渡部さんの写真を提示したり、子どもの日記を取り上げたりして「渡部さんって、どんな人だろう。」と問いかけながら、会ってみたい、話を聞いてみたいという思いをもつことができるようにした。そして「渡部さんのこと、もっと知りたい。」という願いをもったところでわたなべ青果店に行き、話を聞くという共通体験を設定した。ここで渡部さんからこれまで仕事を続けてこられた思いやお客を大事にしている理由などを話していただいた。

第2次では、町の人々の思いや願いにより深く気付くことができるように、「ぼくたち、わたしたちしか知らない、町で出会ったすてきな人のこと」という視点を与えてからグループごとにすてきさがしに出かけた。すてきさがしで話を聞きながら、すてきさがし前に知りたかったことを見たり聞いたり体験したりし、見つけたことや疑問に思ったことなどの気付きの芽生えを学級全体で伝え合う時間を設定した。子どもたちが「すてきな人について、みんなに話したい、伝えたい。」という思いをもつことができるように、写真などの映像資料や道具を提示したり、体験してきたことを

教室で実演したりできるように準備した。伝え合う方法については、多様な表現方法を提案することで子どもたちの表現力の高まりをねらった。また、他のグループの気付きを全員が共有できるように活動の様子や子どもたちの考え、気付きなどを整理した模造紙や写真を教室に掲示した。「〇〇さんが聞いてきたことと〇〇くんが聞いてきたことは似ているね。」と子ども一人一人の思考をつなげたり、「なぜ〇〇屋さんの〇〇さんは、そんなことをしているのだろう。」と掘り下げたりするはたらきかけを行うことで、一人一人の気付きが明確化されるとともに、学級全体で共有化されるようにしたいと考えた。さらに子どもたち自身が「〇〇について確かめたい。」「〇〇はどうか聞いてみよう。」という新たな課題を見付けたり、「おうちにあるものも、同じように作られているのかな。」と自分のくらしと結び付けたりする思考ができるようにしたいと考えた。

第3次では、自分たちがすてきさがしで見付けたこと等をもっと他の人にも伝えたいという思いが高まったところで、隣の学級の友だちや保護者にも伝える活動を設定した。

### 3 展開計画

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は、学び合い）
1	ワタナベ青果店の人に話を聞きに行こう。	1 2・3	・給食室に食材を卸している人に、わたなべ青果店の人がいることを知る。 ・わたなべ青果店に行き、話を聞く。
2	ぼく、わたしが見つけたすてきな人について話し合おう。	4・5 6・7・8 9・10 11・12 13・14・15 16・17 18・19	・会ってみたい人を決め、同じ場所に行くグループで探検に出かける計画を立てる。 ・探検に出かけ、そこで生活したり働いたりしている人に話を聞く。 ・聞いたことや見たこと、体験したことをまとめる。 ◇ぼく、わたしが見つけたすてきな人について伝え合い、新たな課題を見付けることができるように学び合いを行う。 ・もう一度探検に出かけ、そこで生活したり働いたりしている人に話を聞く。 ・聞いたことや見たこと、体験したことをまとめる。 ◇ぼく、わたしが見つけたすてきな人の思いや願いに気付くことができるように学び合いを行う。
3	ぼく、わたしが見つけたすてきな人を紹介しよう。	20 21・22・23 24	・ぼく、わたしが見つけたすてきな人の紹介の仕方を考える。 ・紹介するための準備をする。 ・2年1組に、ぼく、わたしが見つけたすてきな人を紹介する。

### 4 授業の実際

単元を通して、地域で生活したり働いたりしている人の思いや願いについての気付きを広げ深める子どもの姿を願って授業を構想した。評価の分布を見ると、学び合いを進めるにつれてC評価の割合が少なくなり、C評価だった子どもがB評価、

A評価に移っていることから、子どもたちの気付きの質が高まったことがわかる（表1）。

学び合いを行う前には働く人の思いや願いへの気付きにはいたらず、店の様子などへの気付きにとどまっている子どもが7人いた。しかし1回目の学び合いで友だちに伝え、そのことについて質問を受けたり友だちが調べてきたことを聞いたりすることで、働く人や自分自身、さらには友だち

表1：気付きの広がりや深まりについての子どもの変容の様子

	A	B	C
	ぼく、わたしが見つけたすてきな人と友だちがみつけたすてきな人の思いや願いを愛着をもって比べながら考えることで、それらの人の思いや願いについての気付きを広げ深めている。	ぼく、わたしが見つけたすてきな人と友だちがみつけたすてきな人の思いや願いを比べながら考えることで、それらの人の思いや願いについての気付きを広げ深めている。	気付いたことが、ぼく、わたしが見つけたすてきな人の思いや願いにどまっている。
第3時 1回目の学び合い前	3	20	7
第11・12時 1回目の学び合い後	10	17	3
第18・19時 2回目の学び合い後	14	16	0

への気付きも高めていった。また、そこから新たな疑問や追求意欲をもった子どもは、2回目のすてきさがしで働く人からより詳しく話を聞くための質問を考えたり施設内を見学させてもらったりすることで、1回目のすてきさがしでは気付かなかった働く人のより深い思いや願いに気付くことができた。2回目の学び合いでは、働く人の思いや願いをさらに詳しく友だちに伝えることができ、たくさんの働く人の思いや願い、自分自身や友だちに対する気付きを高めていくことができた。

このような気付きの質の高まりがどのような場面やはたらきかけ、学び合いをきっかけとして見られたのか、具体的な場面を以下に紹介する。

### (1) 渡部さんとの出会いをもとに願いをもって主体的に追求する姿

ぼくたちのきゅう食のやさいがあのわたなべせいからやって来ていることをはじめて知りました。大はっけんでした。ぼくたちのためにやさいをもってきてくれるわたなべさんはたぶんやさしい人だと思います。こんどわたなべさんに会ってみたいです。(児童B)

単元の導入として、自分たちにとって身近な給食の食材を運んでくれているわたなべ青果店のトラックが毎朝学校にやってきていることに気付いている子どもの言葉を紹介した。

児童Bはこれまで何度か見たことがあるわたなべ青果店のトラックが、実は毎日食べている給食の食材を運んできていることを知り、とても驚いていた。同時に店長の渡部さんとはどのような人なのかに興味をもち、会ってみたいという願いをもっていた。

わたなべさんはおきゃくさんがかいものにこまらないように、ずっとお店をつづけていることが分かりました。それにぼくたちにおいしいきゅう食を食べてほしいと思って、しんせんやさいをもって来てくれていることも分かって、わたなべさんのすてきなところがたくさん見つかりました。もしかしたらわたなべさんのほかにもおきゃくさんのことを考えながらしごとをしている人がいるかもしれないから、さがしてみたいです。(児童B)

児童Bは渡部さんへのインタビューや話から、渡部さんはお客さんのことを考えながら働いていること、また自分たちのために新鮮な野菜を運んでいることなど、渡部さんの仕事に対する思いに気付くことができた。さらに、渡部さんのように仕事に対して思いや願いをもっている人を探してみたいという追求する姿が見られた。

子どもたちにとって日常的な給食に関係しており、なおかつその仕事に熱い思いをもっている渡部さんを取り上げることで、子どもたちは渡部さんという人に興味をもち、調べてみたいという追求意欲をもつことができた。また実際に渡部さんに会って話を聞くことで、渡部さんのように仕事に対して熱い思いをもった人が他にいないか探してみようという活動の広がりや主体的に追求していこうとする子どもの姿が見られた。

### (2) 繰り返しの体験や学び合いで、願いや思いをもって気付きを広げ深めている姿

児童Cは醤油醸造店に行き、そこで働く作り手の永瀬さんのすてきを探した。児童Cは1回目の学び合いで友だちから「永瀬さんはどんなことを考えながら醤油を作っているんですか？」と質問されたが答えられず、「醤油を作る時、たぶんお客さんのことを考えていると思うけど、聞いてなかったからもう一度聞きに行きたい。」と言っていた。また、他のグループの発表を聞き、「ぼくも、もつとすてきを見つけない。」という願いを強くしていた。学び合いの中で、友だちと話し合いながら新たな疑問をもち、それを解決するためにもう一度調べに行きたいという追求意欲が生まれたことが分かる。

今日、カネモリしょうゆのながせさんのすてきをはっぴょうしました。ながせさんのすてきをたくさん教えることができてよかったです。だけど、友だちのしつもんこらえられなかったからちょっとざんねんでした。そのことをこの前は聞いてなかったから、できればもういちどカネモリしょうゆに行って、話を聞いて、ながせさんのすてきをみんなにはっぴょうしたいです。(児童C)

児童Cはこの後、友だちの質問に答えられるようにもう一度醤油醸造店の永瀬さんへの質問を考

え、すてきさがしに出かけた。そして2回目の学び合いでは、すてきさがしで聞いてきたことを友だちに伝えることができ、気づきを学級全体に広げることができた。

また、児童Dはパン屋にすてきさがしに出かけたが、当初、店にあるパンの種類や数、おすすめのパンなど、店で売られている商品への興味が強く、考えた質問もそのことを聞くものばかりであった。しかし1回目の学び合いに向けたグループでの話し合いと学級全体での学び合いで、同じグループの友だちが調べた働く人の思いや願いを聞いたり、教師が「店長さんは、なんで夜からパンを作っているんだろうね。」と働く人の思いや願いにより迫っていくための掘り下げるはたらきかけをしたりすることで、パン屋で働く人のパン作りへの思いに気付くことができた。また、発表したことに対する友だちからの「なんでトトロなどのキャラクターのパンを作っているんですか？」という質問に答えられず「また、考えます。」とその場では言っていたが、学習後のふりかえりには「もう一度話を聞いてきたい。」という願いが書かれており、次の活動に向けての意欲の高まりを感じた。教師がそれまでの児童Dの気づきをとらえ、何に気付いてほしいのかをしっかりと意識しながら関わったり、児童Dが学び合いの中で友だちと伝え合ったりしたことが、児童Dは新たな気づきを持ち、また次の疑問が芽生えそれが追求意欲につながっていったと考えられる。

そして2回目のすてきさがしでは、働く人の思いや願いが詳しく聞ける質問を考え、お客さんのことを考えながらパン作りをしていることに気付くことができた。さらに他のグループの発表を聞きながら、自分が調べてきた働く人だけでなく、働く人の誰もがお客さんのことを考えて働いていることに気付いていた。

学び合いでの友だちとの話し合いや友だちからの質問に答えるといったやり取りから、新たな気づきや疑問を持ち、それが次の活動への意欲につながるとともに動機付けとなったことが分かる。再びすてきさがしに行き、疑問に思っていたことを調べ、もう一度学び合いの場で話し合う。こうして単元を通して気づきの質を高めることができたのは、子どもの意識の流れや追求の姿をとらえながらすてきさがしや学び合いを繰り返し取り入れたことが有効に働いたと考えられる。

### (3) 学び合いの中での教師のはたらきかけで気づきを広げ深めている姿

以下は学び合い（第19時）の授業記録である。

児童E：桑原さんは、子どものとき絵描きさんになりたくて、いまでも絵が好きなので絵を描いています。  
児童F：絵を描くって言うけど、どこにどんな絵を描いているんですか。  
児童E：お店のガラスのところにいるんな絵を描いています。  
児童F：それのどこが、すてきなんですか。  
児童E：絵を描いているから、お店に来た子どもが喜ぶように描いています。  
児童G：大変だけど、お客さんのために絵を描いています。  
T：大変なら、無理にしなくてもいいんじゃないかな。  
児童E：大変だけど、お客さんのために思っやっている。  
児童H：それだけじゃなくて、いろんな種類のパンも作ってる。  
児童F：いろんなパンを作るのどこがお客さんのためなんですか。  
児童E：お客さんによって、好きなパンや嫌いなパンがあると思います。たくさんのお客さんにお店に来て、パンを食べてほしいからいろんな種類のパンを作っていると思う。  
児童I：私が調べた久木さんも、お客さんのために、夜からとうふだけじゃなくて、あぶらあげなんかも作っています。パンエブールの桑原さんと同じだと思います。

児童Eは、パン屋で働く店長（桑原さん）は子どものころ絵描きになりたかったがその夢をあきらめてパン屋を継いだことを聞いてきていた。そこからパン屋のショーウィンドウに子どもに親しみのある絵を描いて子どもにも店に来てほしいと願っていることを友だちに伝えようとしていた。話し合いの途中で教師が「大変なら、無理にしなくてもいいんじゃないかな？」とゆさぶるはたらきかけを行った。すると児童Eは、子どもやお客さんのためにショーウィンドウに絵を描くだけでなく、たくさんの種類のパンを作っているということを伝えていた。さらに児童Iのように、パン

屋で働く店長と比べて自分が調べてきた働く人もお客さんのために大変だけどがんばって仕事をしていることを発表し始めた。教師の掘り下げるはたらきかけによって、それぞれのグループから働く人はお客さんのためにがんばって仕事をしているというたくさんの気づきが伝えられた。

また、酒造会社に行った子どもたちが発表した際には、まわりの子どもたちから「外国にもお酒を売っていてすてきって言うけど、そこで働く人はどう思っているんですか？」と、働く人の思いや願いにより迫っていく発言が出た。このように、学び合いの中で教師によるはたらきかけだけでなく、子ども同士による問い返しや掘り下げるはたらきかけによって、気づきの明確化・共有化が図られるとともに、気づきの質が高まっていったことが分かる。

## 5 成果と課題

表 2：単元を通した児童Dの気づき

	もの（働く人）についての気づき	こと（すてき発見）についての気づき	人（自分自身・友だち）についての気づき
第3時後			<u>わたなべせい</u> か店の <u>いろんなこと</u> が分かってよかったよ。
第12時後	カーメルのしまださんは「おいしいパンになあれ」と <u>おまじない</u> をかけながらパンを作っていることがわかったよ。	すてきをたくさんはっぴょうできてよかったよ。 <u>もういちど、くわ原さんに</u> 会いに行つて話を聞きたいよ。それできわしくしらべてきたいよ。	<u>自分の知らなかったこと</u> が知れてうれしかったよ。
第19時後	どのお店の人も、 <u>おきやくさん</u> や <u>店いんさん</u> 、 <u>子どもたちがえ顔</u> でよろこんでもらいたくて、 <u>一生けんめい</u> はたらいていることが分かったよ。	すてきさがしをして、5人のはたらく人のすてきをたくさん見付けることができたよ。 <u>こんどはちがう人のところ</u> に行つてみんなと同じようにすてきを見付けてきたいよ。	<u>友だちは、すてきをたくさん見付けて</u> いてすごいと思ったよ。

児童Dは単元を通してもの・こと・人についての気づきの質を高めてきたことが分かる（表2）。これは、導入で渡部さんと出会い、そこから児童Dの思いや願いをとらえ活動を広げ、すてきさがしや学び合いを繰り返して行い追求意欲をもち続けることができるようにしたからであると考え。また、教師が子ども一人一人のその時々々の気づきを的確にとらえ、それぞれの活動においてそれまでの気づきに応じた提案やはたらきかけを行ったからであると考え。

本単元で取り上げた「そこで生活したり働いたりしている人」にどう出合わせ、願いをもって追求していけるか工夫したこと、また、単元を通して子ども一人一人の気づきや思考力・判断力・表現力の高まりをとらえ、はたらきかけていったことが、このような姿につながったと考える。また、学級全体としては表1のように、体験と学び合いを繰り返したことにより、新たに疑問や追求意欲をもち次の活動への意欲が高まったり広がったりしたからであると考え。

学習後、スーパーマーケットに行くたびにすてきさがしで訪問した酒造会社のお酒が売られていないか探しまわったり、パン屋の店長に会いに行ったりと、学習したことをくらしにいかしている子どもがたくさん見られた。

今回、学び合いの場面では、子どもは調べてきたことを紙芝居や模造紙、クイズなどにまとめて友だちに伝えていた。しかし、生活科という教科がもつ特性や2年生という発達段階を踏まえると、働く人の思いや願いが伝わるものとして実物などを提示しながら伝えるなど、多様な表現方法の提案を教師が行っていかないとさらなる思考力・判断力・表現力の高まりは期待できないと感じた。また、学び合いの進め方について、この学習では子どもたち同士の活発な話し合いによって気づきが広がり深まることを目指した。教師として、この話し合いを子どもたちにどこまでまかせて、教師がどの程度子どもの話し合いの中に入っていくのかについて、適切に判断していくことが今後の課題である。

（文責 大坂 慎也）